

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 群馬県 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	群馬県立西邑楽高等学校スポーツ科3年生20名
3 展開の形式	<p>(3) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (パラスポーツ体験)</p> <p>(4) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>パラスポーツを実際に体験することによりパラリンピックへの興味関心を向上させるとともに、盲学校の生徒との交流を通じて障がい者の活動全般に対する理解を深め共生社会について考えるきっかけとする。</p>
5 取組内容	<p>パラスポーツ体験（ゴールボール、ブラインドサッカー）</p> <p>期日 平成30年11月21日（水）</p> <p>会場 群馬県立盲学校</p> <p>15：45 開会、学校紹介、競技に関する説明、準備運動</p> <p>15：55 ゴールボール、ブラインドサッカーの2班に分かれてパラスポーツ体験</p>



17:00 閉会、挨拶、全員と握手



事前学習 インターネットでゴールボール、ブラインドサッカーについて調べ学習を行なった。

<p>6 主な成果</p>	<p>ゴールボールもブラインドサッカーもアイマスクをして行うため、視界を遮られた中で音だけを頼りにスポーツを行う体験に、生徒は当初かなり恐怖を感じていた。しかし、技術指導を受ける中で徐々に慣れてきたりコツを掴んだりしてパラスポーツを楽しめるようになっていった。限られた時間の中ではあったが最後には簡単な試合を行ない盛り上がる事ができた。</p> <p>また、盲学校の生徒と一緒に行動することで障がい者への理解が深まったように感じた。特に目が見えない状態にもかかわらず、恐怖心を微塵も見せずに自分たちよりもはるかに上手に行う姿を見て、尊敬の念を抱くほどであった。</p> <p>今回経験したことでパラリンピックへの興味関心が醸成されたことは言うまでもなく、障がい者との共生について考えさせる経験ができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>盲学校に出向いて実施したことで、生徒は普段と違う学習形態に高揚感があった。</p> <p>盲学校に出向いて行動することで、用具の購入費用を抑えることができた。</p> <p>参加生徒数、日程、内容等については先方の都合を最優先して調整した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>実施にあたり盲学校の先生方には他の行事と重なる中、大変多忙を強いることになってしまった。</p> <p>当日の実技指導においても盲学校の先生方がすべて行動するため負担を掛けてしまった。</p> <p>盲学校の生徒は普段少人数のため、本校生徒20名といえども一度に多くの生徒と接することがない盲学校の生徒にとっては精神的負担が大きかったと思われる。</p> <p>盲学校の部活動の時間に合わせて実施したため、帰校、帰宅が遅くなってしまった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>現時点で来年度の内容は未定であるが、パラリンピックへの興味関心をさらに広げられるよう内容を吟味していきたい。</p>